

## 活動状況報告書（3月分）

文化芸術コース 田坂 佳那

3月は、留学生活が始まってから今までで最も取り組む曲数やレッスン等の機会が数多くあったので、練習やレッスン、リハーサル、本番とめまぐるしく過ぎた1ヶ月となりました。

主専攻(器楽伴奏科)のレッスンではクラリネットとピアノのためのソナタに取り組み、今月は共演者と一緒にレッスンを受けました。前のゼメスターでは楽器とオーケストラのための協奏曲(ピアノ伴奏版)の伴奏に取り組んでいたのですが、この曲は主専攻のレッスンでははじめて取り組む室内楽作品となりました(楽器が独奏でオーケストラが伴奏をする'協奏曲'とは異なり、楽器奏者が複数名でアンサンブルをする作品が'室内楽'です)。先生からはコレペティトア(伴奏をしながら指導をするピアニスト)として楽器奏者に対して伝えるべきことやリハーサルの仕方を教わると同時に、先生のご指導とお言葉のひとつひとつから、室内楽としてより良い演奏をつくり上げていくためには、どのようなアプローチで共演者と互いに意見やアイデアを交換し、共に解釈を練っていく必要があるのかを学びました。今までは相手の音を聴いて合わせるということを習慣的に行ってしまっている部分がある自分にとっては、反省し考え直すきっかけにもなりました。よりクリエイティブに音楽的にアンサンブルができるよう、良い方向に向かうように改善して変化したいと思います。

主専攻のレッスン以外には、引き続き指揮伴奏やスコアリーディングなどの授業と、あとは室内楽の授業でピアノトリオ(ヴァイオリン・チェロ・ピアノ)の作品や、フルートとピアノのデュオに取り組みました。今は器楽伴奏科のレッスンと室内楽の授業のレッスンで3名の異なるピアノの先生にご指導を受けていて、どの先生もアンサンブルピアニストとしても大変素晴らしい方々なので、奏法や作品の深め方など本当にたくさん学ぶことができます。

授業以外の取り組みとしては、世界的指揮者のマリン・オールソップが、ウィーン市立音楽芸術大学の指揮科の学生向けにマスタークラスを行うことになり、その際のオーケストラの演奏(ピアノ4手編曲版)を担当させていただきました。曲目がマーラー作曲の交響曲第9番だったので準備が大変でしたが、指揮科の先生によるマスタークラスに向けたリハーサル、そしてもちろん当日も、指揮や作品について私にとっては全く新しいことを勉強させていただきながら、とても貴重な経験をさせていただきました。その他、コンクールを受験する学生さんの伴奏を終えて、イースター休暇に入りました。

日本に居るとイースターをお祝いする文化に触れたことがあまりなかったのですが、クリスマスの時のように家族とお祝いする大切な日であることがわかりました。イースターの象徴である卵やうさぎの装飾が街のいたる所に飾られて、イースターのマーケットにも行きましたがたくさんのハンドメイドの綺麗で繊細な卵の装飾が売られていました。添付した写真に写っている卵の装飾を木の枝に吊り下げて飾るそうです。クリスマスツリーには馴染みがありましたが、そのように装飾されたイースターの木と呼ばれるものは初めて見ることができました。イースターの装飾やマーケットで街がカラフルになり、春らしいお花もたくさん咲いて、すっかり春が訪れています。



